

<動脈瘤のステントグラフト治療を開始します>



令和3年4月から榛原総合病院に赴任いたしました植木 力と申します。

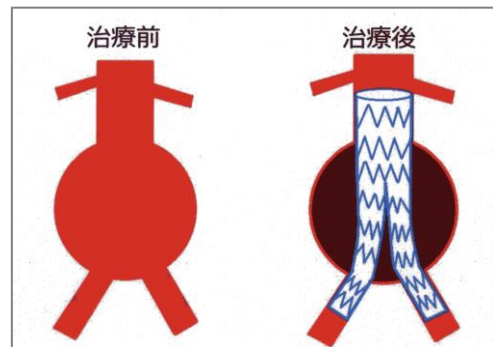
私は2007年に京都大学を卒業後、岡山の倉敷中央病院で初期研修・心臓血管外科の研修を積み、2013年からは静岡県立総合病院に異動して心臓血管外科医として8年間心臓・大動脈手術を行って参りました。

6月から榛原総合病院で始まる大動脈瘤に対するステントグラフト治療(カテーテル治療)をご紹介します。

大動脈瘤は胸やお腹の大動脈がふくらんで瘤(こぶ)になる疾患です。特に自覚症状がないことも多いためCTなどで偶然発見されることが多い病気ですが、ある日突然破裂することがあり、突然死の原因となります。そのため、破裂が起こる前に大動脈瘤を治療することが重要になります。

大動脈瘤に対して、従来は胸やお腹を大きく切って動脈瘤を切除する“人工血管置換術”が標準的な治療とされてきました。人工血管置換術は大動脈瘤の破裂の予防にはとても有効な治療である一方で、体への負担が大きく、重症な合併症がある患者様などには必ずしも行うことができないケースがあるという課題がありました。

そこで、我が国でも導入されたのが“ステントグラフト治療”という新しい手術法です。ステントグラフト手術は足の付け根の動脈から数mmの太さに折り畳んだステントグラフト(金属の骨組みが付いた人工血管)を進めていき、大動脈瘤の前後をカバーすることで動脈瘤への血流をなくす治療です。胸やお腹を切ることなく、足の付け根の2-3cm程度の傷で手術ができるため、これまでは治療が難しかった高齢な患者様などにも治療を受けていただけるようになりました。手術翌日からお食事を召し上がったたり、歩いたりできるため、入院期間は問題がなければ術後4-5日程度で退院となります。



このように負担が少なく魅力的なステントグラフト治療ですが、安全に治療を行うためには十分な経験が必要となります。私はステントグラフトの指導医の資格を取得し、これまでに500件以上のステントグラフト治療を経験してきております。その経験が認められ、榛原総合病院が令和3年5月21日付けで胸部・腹部ステントグラフト実施施設の認定を受け、6月から当院でもステントグラフト治療を実施できるようになりました。今後はこれまでの経験を活かして地域の皆様に安心して大動脈瘤の治療を受けていただけるように努めて参りたいと考えております。